

2018年10月5日 平成30年度シンポジウム

今回もあいにくの雨天でしたが、200名以上の皆様にご参加いただきました。ご参加くださった皆様、どうもありがとうございました。

東京大学こころの多様性と適応の統合的研究機構 公開シンポジウム
「こころの適応を探る」

日時 2018年10月5日(金)15:00～19:00
開催場所 東京大学 駒場Iキャンパス 数理科学研究科棟 大講義室

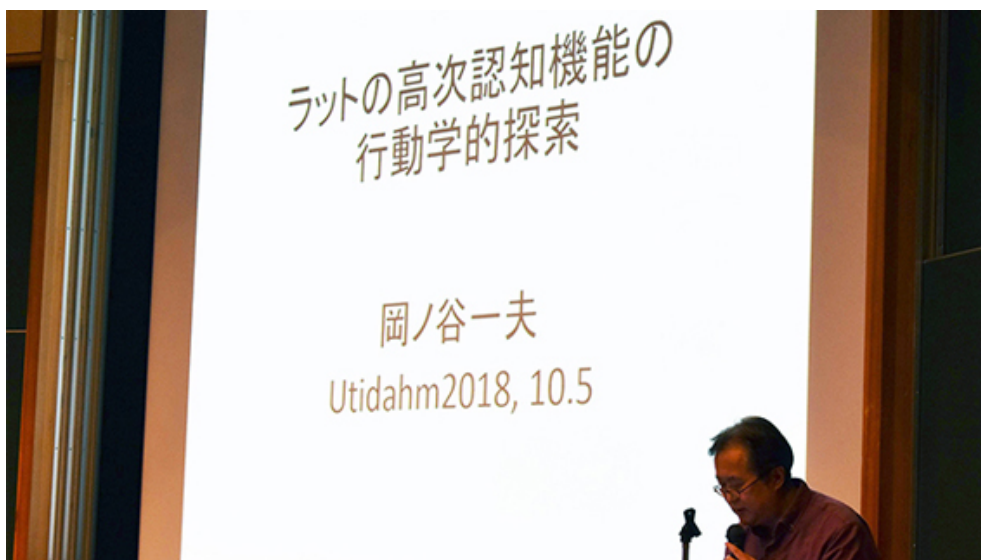
岡ノ谷一夫機構長から開会のご挨拶として、当機構の研究活動および当機構が運営する部局横断型教育プログラム「こころの総合人間科学」の活動状況等が説明されました。その後、当機構委員および学内の研究者による研究発表が行われました。ポスターセッションでは、学内の各部局の若手研究者による発表が行われ、聴衆の方々も含め、活発な議論の場となりました。最後に、笠井清登副機構長より、分野横断的な議論が増えてきたことを喜ばしく思うとともに、今後より一層、分野横断的な研究の推進を願う旨のご挨拶があり、会が締めくくられました。

プログラム

開会挨拶 岡ノ谷一夫 機構長(総合文化研究科)
研究発表
閉会挨拶 笠井清登 副機構長(医学系研究科)
司会 小池進介(こころの多様性と適応の統合的研究機構)

研究発表

岡ノ谷一夫(総合文化研究科)「ラットの hochi 認知機能の行動学的探索」



岡本雅子(農学生命科学研究科)「匂い知覚に関わる認知処理:ヒトの生理計測」



西大輔(医学系研究科)「レジリエンスと心的外傷後成長」



加藤淳子(法学政治学研究科)「社会における人間の行動を理解するとは？」



ポスター発表優秀賞

黄子彦(総合文化研究科)

「ストレス体験の精神症状に対する特異性と共通性」

井上裕香子(総合文化研究科)

「“利他的”な嘘は許容されるのか？」

佐藤由宇(薬学系研究科)

「聴覚または視覚による文章理解時の生体シグナル比較」

